

4. 令和元年度秋季「防音勉強会」 —「防音対策の初歩」—開催報告

一般社団法人日本音響材料協会
(Acoustic Materials Association of Japan)

令和元年度秋季「防音勉強会」(講師：日本音響材料協会技術顧問・宮尾健一氏)が、日本ガラス工業センタービル会議室にて、11月28日に開催されました。

「防音勉強会—防音対策の初歩(ゼロからのスタート—)」は、「防音の基礎知識を、実務経験50余年の講師と共に勉強し、各種技術情報を理解し、「防音」の実務知識の基本を会得できる」ように、レベルアップすることを目的とするものです。また、受講対象として、建築施工者、建築設計者、防音材営業関係者、建材開発者、音響コンサルタント、ディベロッパー、建築系学生などで、防音の知識を白紙から学びたいビギナーを考えています。

今回受講して下さった方々は、建築音響コンサルタント、音楽関係者、マスメディア関係者、防音問題研究家、防音材料開発関係者など、多くの分野に亘っています。

とくに、本勉強会を社員研修の一環として参加されている企業が2社あり、最近の傾向として挙げられます。

内容としては、講師は、わかりやすい独特のパワーポイントにより、「防音対策の基本事項・防音の常識」などに力を入れていました。

すなわち、よく防音対策を間違える事項で、「空気音と固体音」をはじめ、遮音・吸音・制振・防振の「基礎知識と防音対策への適用」などを実務的見地から解説していました。とくに、理解しやすいモデルなどにより、「デシベル」の特徴を基にした「防音対策の考え方」についての説明をはじめ、「パターン別防音対策の違い」などの事項を、数式によらず解説していました。

防音対策の具体的な考え方として、ピアノの防音を例にとった各種の対策、聴感の特徴と騒音計(サウンドレベルメータ)A特性の関係、「低い音」と「低周波音」の意味などについて説明していました。さらに、最新の防音対策の決定版とされることもある「アクティブノイズコントロール」について、その原理と、実際のシステム事例について、その仕組み、効果等について言及していました。

また、とくわかにくいと云われる「防音関係のグラフ」の見方・意味などを、事例を用いて説明していました。

とくに、問題が多い、集合住宅における「重量床衝撃音」の測定法・評価法について、最新情報を紹介し、また、床構造開発の際の留意点などを挙げていました。「復習の時間」では、履修項目のうち重要な事項を再度解説していました。

「何でも質問の時間」では、下記のような質問を戴きました。

Qの例を次に掲げます。これらについては、会員頁Q & Aコーナーに順次掲載してゆく予定です。

〔質問事項〕

- ・共鳴吸音材、中低音用吸音材
- ・自動車車内騒音
- ・戸建住宅音楽室
- ・二重壁の遮音予測法、床衝撃音レベル低減量
- ・その他

「防音勉強会」は、ビギナーを対象としたものですが、当協会では、毎年「音響基礎講習会(7月予定)」と「技術講習会(11月予定)」を開催しており、これらにもつながる勉強会です。

今後も「防音の初歩を学ぶ場」として、「防音勉強会」(春季、秋季年2回)を開催してゆく予定です。

2020年度春季は、5月下旬に開催を予定しています。(HPに掲載致します)



猪熊専務理事の挨拶ではじまりました。